

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900082		
法人名	特定非営利活動法人 ケアセンターいこい		
事業所名	グループホーム いこいの華 B棟		
所在地	〒029-3105岩手県一関市花泉町花泉字地平21-8		
自己評価作成日	令和2年7月	評価結果市町村受理日	令和2年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は花泉の中心地にあり、花泉駅まで徒歩5分という立地です。以前は田んぼが多い地域でしたが、最近では引っ越してくる方も多く、新築の家が建ち並ぶようになりました。徒歩8分程の距離に県立花泉高校があり、毎年地域交流のお手伝いや、お茶会などで来ていただき入居者様の交流も毎年行われています。また、社会体験学習を通じていこいへの入社を決める生徒さんもあります。地域に根差した施設として、地域交流を活発に行っており、流しソーメン、地区の子供会ラジオ体操の場の提供、高校PTAのあいさつ運動の際には駐車場を開放し利用していただいています。地域の方々にも年2回の避難訓練の際には協力いただき、入居者様の誘導や講習をいただいています。また、敷地内に地域交流センターを併設しており、いろいろな方に利用してもらっています。華自体では毎月1回認知症カフェを実施しており、毎回20名程の方が来られます。開所から10年となりますが、まだまだ地域と一緒にできることを考えていき、これからも地域の方に協力いただきながらよりよい施設を目指したいと思います。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲に田や畑が広がり、近くに花泉駅や高校がある開設11年目の事業所である。母体NPO法人は、21年前に起業し社是を「信頼・親身・進取」とし、当事業所を含めた10数カ所の高齢者福祉施設を運営している。利用者の平均年齢は90歳と高齢化・重度化が著しいが、「今を生きている」を大切に管理者を中心に研修を重ねており、看取りを含む重度化対応指針を定め医療・看護との連携体制を整えている。自治会に加入し地域の行事に参加する一方、高校生や地区民のボランティア等が来所している。グループホームに隣接するコミュニティーセンターでの認知症カフェ(「華カフェ」)に毎回20人程度の参加者があるなど、地域との交流は活発に行われている。しかしながら、令和2年1月以後は新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」)の感染予防のために、ボランティアや家族の面会を止む無く制限している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年8月27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をホーム内に掲示しており、毎朝朝礼時に『社是』を唱和している。また、施設独自に努力目標を設定しています。3月に職員全員に振り返りをしてもらい、次期の目標を決めています。	法人の「社是」「運営理念」「サービス理念」と一体化し、年度毎に職員全員で話し合い事業所の努力目標を設定している。更に、「健康・笑顔で暮らしたい」とする利用の希望を尊重しながら、サービスの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域交流イベントを毎年開催しており、地域の方々や、花泉高校の生徒さんにもボランティアで手伝っていただいています。また、社会体験学習で高校生の受け入れも行ってます。	自治会に加入しており、諸行事に参加している。施設を開放し、サークル活動や華カフェ(認知症カフェ)などの活動が活発で、施設行事(流しそうめん)には多くの住民が来所する。踊り・語り部・キッズコーラスの他、近隣の高校生が実習やボランティアで来所している。現在はコロナ禍のため止む無く受け入れをお断りしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月認知症カフェを開催しており、地域の皆様に認知症予防、認知症の方への接し方、家族で認知症の疑いがある方への相談を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、行政、区長様、民生委員様、ご家族様、いこい本部と毎回参加いただいています。会議内では、施設内での様子、行事内容、地域からの意見、行政連絡、ご家族様からのお話を伺い、サービス向上に活かすようにしています。	委員の区長や民生委員から、具体的な意見・助言・協力を得ている。華カフェへの参加呼びかけをして頂いており、また、危険箇所の指摘や災害時対応の助言を受け運営に活かしている。現在は感染症対策で書面開催として資料を届け、意見を伺っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1度の運営推進会議の際に、相談をし助言をいただくようにしています。わからない事がある時には、行政にその都度聞きながら職員、家族様にお話をするようにしています。	運営推進委員の市担当職員から国等からの通知について説明を得ているほか、地域包括支援センター(花泉支所)とは、運営上の様々な問題について随時相談し助言を得ている。事業所職員も毎回参加していた認知症カフェ(「華カフェ」)は、コロナのために本年1月から開催を見合わせている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は内部研修、外部研修等で勉強しています。また、入所説明の際には身体拘束をしない事を家族様に説明し了承いただくようにしています。玄関の施錠は夜間のみとしています。	身体拘束廃止適正化委員会を運営推進会議に併せて開催し、内部研修等では資料やビデオを活用して理解を深め、具体的事例も取り上げ確認し合っている。スピーチロックについては、職員同士で注意し合っているほか、管理者は「自分がその立場だったらどう思うか」との視点で職員を指導している。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議内で勉強会をし、職員全員に周知させてます。また、法人全体でも講師を迎え虐待防止についての講習会を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待の防止と同じく、勉強会を行っています。また、家族様からの相談もあり、わからない事があった際は、包括に聞き、家族様に伝えてます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時点で、入所条件や入所の流れを説明させていただいています。入居が決まり契約時にも再度内容説明しています。不安や疑問点がある場合は、できるだけ契約時に聞いて頂き納得いただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際に、家族様からは意見や要望を聞くようにしています。また、面会時、通院時に本人の様子や要望を家族に伝え、家族様からの要望意見も伺い、できるだけ、本人、家族の希望を取り入れられるよう職員で検討しています。	家族の声は、面会や行事参加、通院同行で来所された際に聴き取るよう努めている。運営推進会議に家族代表も参加し意見・要望が出されている。コロナで運営推進会議の開催を中止したり面会も制限しているが、電話で家族の要望の確認に努めている。	コロナ禍により面会の禁止や行事の見合わせが続いております。家族から要望等が寄せられるためには、ホームの実情を理解していただくことが大切なことから、法人の広報とは別に「ホーム便り」を発行することや、家族同士の繋がりを深める家族会の設立又はそれを支援することについて、検討されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で出た内容や、日々仕事の中で出ている疑問や、提案を聞き、改善に向けて全員で話し合うようにしています。また、月1回のGH会議内でも他事業所の話も聞き参考にさせてもらってます。	毎月の職員会議や年2回の個人面談の他、必要な場合法人本部が入り職員の要望等を把握している。利用者の高齢化・重度化に対応した浴室改善の提案があり、浴室入口の拡張、介護チェア（回転式座椅子）の導入、A・B棟の連携・協力など、安心して入浴出来るよう改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価をつけてもらい、個々に面談も取り入れております。それにより、個々で努力してきた事、希望を聞く機会を設けてます。また、職場環境を職員全員で考えるようにしており、職員会議等で話し合えるようにしています。		

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修にはできるだけ参加しやすくするよう、出勤の調整を行ってます。また、研修に行った職員が職員会議内で伝達し、全職員が知識を上げるよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内で研修を行っています。他事業所での介護の仕方、言葉かけ、業務の内容を学び自施設だけのやり方だけではなく知見を広げる為に行ってます。また、包括を通して花泉のGHと今後交流を持つ話も出ております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面談で本人、家族様から生活歴、性格、普段の様子などを伺い、入居後もしばらく様子観察を行い、行動、言動を注目しその方の不安や要望を探るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時点で、ご家族様の困りごと、不安、要望を伺うようにしてます。また、契約前にグループホームでできる事出来ない事、協力いただく事等を説明してます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の気持ちを伺い何を求めているか、サービスが合っているのか検討し、本人、家族と共に話し合うようにしてます。また、他のサービスも提案し本人に一番合う利用も伝えるようにしてます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除やお料理等を一緒に行う事により、職員も掃除の仕方やお料理の仕方、またレクリエーションでは昔の遊び等を教えてもらい、入居者様から学ばせていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や、通院、電話などで普段の様子をお話しし、家族様の要望、意見、不安などを聞くようにしています。また、職員からも施設での生活の中で出ている本人の言葉や行動を相談し、家族と共に本人を支える関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後にご友人や親戚の方が面会に来た際は、自室でゆっくり過ごせるよう椅子やテーブルを用意しています。行事の中に故郷訪問を入れ入居者様の故郷に出かけるよう計画をたてるようにしています。	入居時に家族から利用者の関係性(馴染みの人など)について伺い、その後の関係継続に向けた支援に繋げている。「故郷訪問」は、法人バスを利用して利用者の故郷に出かけ、利用者に懐かしい故郷の風景を眺めて頂きながら外食の機会ともしている。職員や家族の付き添いで馴染みの美容院に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の性格、感情、認知を把握し、入居者間のトラブルを未然に防げるよう席を考慮しています。また、入居者様同士、出来ないところを手伝ってあげたり、共同生活の中でお互い助け合いながら生活をしている様子がみられています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や次の施設に移動した際も家族様には何かあれば相談を受けれることを伝えるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や目標を伺ったり、認知により理解が困難な方には家族様に伺ったり、普段の生活の中で困っている事、頑張っている事、継続できている事に着目しプランに起こすようにしています。	思いや意向の把握が困難な利用者が多くなってきているが、「利用者の表情を読みとること」「ふとしたときに語る何気ない言葉も見逃さないこと」を職員間で申し合わせ、思いや意向の把握に努めている。「利用者との相性を考慮した職員配置」「申し送りノートやタブレットを活用した引き継ぎの徹底」により、利用者本位の切れ目のない支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後には、その方からの聞き取りだけでなく、家族や会いに来られた友人の方に昔の話や、性格など差しさわりのない限りで伺い参考にしています。また、以前利用していた施設等にも電話で伺うこともあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を用いて職員全員が目を通し状態を把握するようにしている。また、体調が大きく変わった方は職員で話し合い、その方への介護の接し方プランの見直しを検討するようにしています。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に意向を伺い、電話や来所持に家族様からの意向を伺います。ケアプランの内容でケアをしており、日々の介護記録や職員の話の内容を計画作成者が聞き取り、各棟で検討し時期プラン作成をしています。	入居時には、本人や家族の様々な希望を伺いそれに沿ったプランを作成している。ケアプランの見直しは、入居後の3か月後に、その後は6か月ごとに職員全員で家族の意向に配慮しながらモニタリングし、見直している。ケアプランの家族への説明は計画作成担当者が行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	去年の9月から介護ソフトが変わり、現在iPadでの記入となりました。以前は手書きでしたが、データが一目でわかるようになり、記録も細かいところまで共有できるようになったので、変化が出てきた際は皆で話し合うようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様に通院をお願いしておりますが、遠方で来られない方、都合悪く通院できなくなった家族様に代わって通院はしております。通院ができなくなってきた方には訪問診療がある事を伝え安心して診療が続けられる事を伝えてます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花泉高校の生徒さんに手伝っていただき、毎年地域交流流しソーメンを開催しており、入居者様、地域と皆さんと楽しく過ごしています。また、避難訓練では、地域の方々と消防に協力いただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医に行かれる方が多いですが、協力医に変更した方もおります。また、皮膚科の訪問診療を伝え、通院回数が少なくなり家族様負担も軽減できるようにしています。	両棟合わせて18名の利用者中16名は継続してかかりつけ医を利用し、2名は事業所の協力医に切り替えている。協力医への切り替えは、家族の希望によるものである。通院の付き添いは家族が対応しているが、認知症が進んでいる利用者には職員も同行している。通院結果は家族から口頭で報告を受け、記録している。皮膚科と歯科は、ホームに往診していただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師はいないのですが、R2年4月から月2回市内の訪問看護師に来ていただき、入居者様の状態、相談をしています。オンコールで夜間も不安の時は相談できる体制になり、強力なバックアップ体制になりました。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	事前にくらしのシートを作成しており、入院が決まった時点でくらしのシートを提供しています。入院後は、家族様、医療機関、施設と早期退院に向けて面会や、電話等で情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関して、契約時に契約書と別に「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を説明し同意を得ています。状態や気持ちが変わる事もあるのでその都度説明し、話し合いをするようにしています。	入居時に「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を説明し、家族の同意を得ている。看取りの実績はないが、生活の場(ホーム)で見送りたいとしている。協力医である一関病院と連携しながら適切に「看取り」を行えるよう職員研修を行っており、また、一関病院の訪問看護ステーションでは、夜間でもオンコールで対応して頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で緊急時対応の研修を行っています。また施設内にAEDを設置しており内部研修で使い方を職員に周知しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月に総合避難訓練、10月に夜間想定避難訓練と2回避難訓練を実施しており、地域の方にも協力いただいています。反省点、改善点を互いに出し合い、災害時に備え入居者様の安全を常に話し合っています。	ハザードマップで当施設は、各種災害の危険地域には該当していない。年2回の総合避難訓練では、地域の自主防災組織の協力を得ている。運営推進会議や避難訓練時に地域住民の方々から助言された事項や改善が必要な事項を職員間で共有し、災害対策や次回の避難訓練等に活かせるよう努めている。3日分の食料・飲料水・発電機・ストーブ・ポータブルトイレ等を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間でその方の生活歴、性格をよく理解、把握し、統一した声かけ援助を行うようにしています。また、不適切と思われる声かけ、援助の仕方をしていれば管理者が注意し、改善するよう指導しています。	「利用者の言動に誤りがあっても、認知症によるものであり、否定しないこと」、「利用者は今を生きていること」を職員間で心がけながら支援している。日中のレクリエーションに声かけしても参加しようとしていない利用者には無理強いせず居間の小上がりで自由に過ごしてもらっている。トイレ誘導は他の利用者に聞こえないように小声で声かけし、トイレを利用するときは職員は仕切り用カーテンの外で待つようにしている。各利用者の居室には必ずノックして断ってから立ち入るように心がけている。職員が利用者にな不適切な言葉かけを行わないよう、望ましい声かけについての職員研修を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中や会話の中でその方の思いや希望をくみ取るようにしています。何かを行う際は、必ず本人の希望を伺い自己決定の上でしていただくようにしています。なかなか自己決定が難しい方は表情や、発した言葉の奥に着目し家族様と話し合いながら決めることもあります。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや掃除など声かけて手伝っていただくが、その日その日で気分が違うので、必ず声をかけその方の今日の様子をみるようにしています。無理には誘わず、時間をみて再度声をかけたりし状態をみます。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の方は毎日髭剃りを促し、鏡を見ながら行ってもらっています。出来ないところは職員声をかけたり、手伝っています。女性の方では馴染みのパーマ屋さん定期的に施設で送り迎えを行っています。			

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や片付けを一緒にを行い、出来ることは継続して行う支援をしています。また、できない方へのお膳下げ等積極的に周りの方への援助を進んでする方もおり、皆様個々に協力して生活しています。	食事の準備や片付けを職員と一緒に出来る利用者は両棟合わせて18名中3名である。法人の特別養護老人ホーム管理栄養士作成の3グループホーム共通の献立表を、当事業所の利用者の要望を加味し一部修正して使用している。利用者は職員と一緒に食材の買い出しに週2回外出している。誕生会等の特別食を月1回提供している。食事は、利用者が視覚、嗅覚、触覚で楽しめるよう配慮している。また、おやつは利用者と一緒にできるだけ手作りするよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態はその方に合わせて、普通食、刻み食、超ミキサー食、トロミ食としています。人により食事量チェックを行い、主治医に相談しています。栄養補助食品などを活用し栄養不足にならないよう気をつけてます。また、水分は多めに取っていただきたい方には、座った際に目の前にお茶等置くようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き誘導を行い、声かけや介助を行い口の中を確認しています。歯磨き拒否される方がいるので、その方にはうがい薬を使用しています。口腔内に問題がある方には、家族様に連絡して通院の有無を確認、車椅子の方には訪問診療をおねがいしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて一人一人の排泄パターンを調べたり、行動をみてトイレ誘導しております。できるだけ、トイレでの排泄が継続できるように、立位が難しくなってきた方でも、職員二人介助を行い、トイレでの排泄をしています。	両棟合わせて6名の利用者は排泄が概ね自立している。トイレ誘導は殆どの利用者に行っており、そわそわしてきたときに速やかに誘導するようにしている。1名の利用者が夜間にポータブルトイレを使用している。便秘気味の利用者が多いので、排泄チェック表で排便の日時を確認し、排泄パターンに基づいてトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、朝にヤクルトや乳製品を毎日出すようにしています。水分不足にならないよう、常に目の前にお茶等を準備しています。また、適度に体操を行うようにしています。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、週2回としています。職員配置の都合上午前中に入浴はしております。体調や気分により入浴を拒否された方は、日を改めて入浴していただいています。一般浴しかないため、立位ができなくなった方はシャワー浴対応しています。	入浴は月・水・金・土の午前中とし、利用者は週2回の入浴である。季節に応じ、菖蒲湯や柚子湯とし楽しんでいる。高齢化・重度化に対応し、浴室入口を広くし回転式座椅子を設置するなど安全面に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間はその方に合わせて寝ていただいています。夕食後、パジャマに着替える人は職員介助しながら着替えていただき、入眠への促しをします。居室にテレビがある方は横になりテレビをみて過ごされる方もおります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院内容は日々のケース記録に記入、薬剤変わった際は朝礼、終礼等で報告し皆に周知させてます。薬剤変更に伴いその方の状態を観察し、変化を見逃さないよう職員間で話しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に家族様から、昔の仕事内容、趣味、嗜好を伺い、その方が望まれる生活を送れるよう日々検討しています。また、帰宅願望の強い方や、外へ行きたいと言われる方は、車でドライブや散歩を行い日々のストレスが軽減できるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回はできるだけ行事で外に出かける機会を持ち、季節の移り変わりや、気分転換ができるようしています。個別として、馴染みのパーマ屋さんに行かれる方がいるので施設で送迎をしています。自宅に帰りたいという方もいます。その方には、近くまでドライブに行き落ち着いたところに施設に帰ってきています。	穏やかな日は、職員と施設周辺を30分程散歩しリフレッシュし、食材購入では週2回近くのスーパーに出向いている。お花見などの季節の行事や「故郷訪問」を計画し、各利用者が法人バスで月1回は外出できるよう努めている。家族の協力で外出・外食・外泊される方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設預かりで管理していますが、欲しいもの、必要なものは職員が預かり金で購入しています。入居者様の中では職員と一緒に買い物にでかけ欲しいものをご自身で選んで頂いている方もおります。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様、親類、友人と電話をしたいと言う方には施設の電話をお貸ししています。家族様にもご本人とお話したい場合にも施設に電話いただいて話をさせていただいています。手紙はご希望があれば代筆を行います、特別今は要望がないため行ってはおりません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節に合わせて壁飾りを一緒に制作し飾りつけをしています。トイレには一人で行かれる方が迷わないようドアに『トイレ』と紙に書いて貼っています。	食堂兼居間は、エアコン・床暖房・加湿器で温度・湿度が快適に保たれている。壁面は利用者で作ったちぎり絵や折り紙が飾られている。一関市の「七夕祭り」用の「吹き流し」は隔年に職員と利用者が共同制作し、祭りに先だってホールに飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2棟廊下が繋がっているため、お互いに行き来しています。気の合った入居者様同士お話をされたり、小上がりで休まれたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の前に持ち物として馴染みの物も置ける事を説明しています。箸や茶碗は自宅で使っていた物を持ってきていただいています。居室では布団に寝ていた方は布団を持ってきていただき、ベッドをよけ使い慣れた寝具で眠られる方もおります。	ベッド・テーブル・椅子・クローゼットが備えられ、エアコンで温度・湿度が調整されている。利用者はそれぞれ馴染みの写真や小物を持ち込み、自宅の雰囲気を感じさせる居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やホールには手すりを設置し自由に歩けるようしております。また、ADLの低下により足の運びが悪くなった方や、杖等福祉用具を見直し、今の状態にあった靴、用具を選定するよう、福祉用具を扱う専門業者さんにアドバイスをいただいています。		